



## 日常を大切に

先日、来校されたお客様を昇降口へお見送りするとき、廊下ですれ違った数名の生徒が、声をそろえて「こんにちは!」とあいさつをしました。昇降口までの十メートルほどの距離の中で、このような場面が3回あり、すれ違う際は、どの生徒もお客様の顔をしっかり見て、マスクはしているものの目元はにっこり笑顔で挨拶をしていました。お客様が昇降口を出られるときに、「鹿中の生徒さんの挨拶には、素直な心が映し出されていますね。」とお褒めの言葉をいただきました。

3年生の入試が今、まさに本番を迎えています。3学期に入り、入試に備え、校長室で面接練習を行っています。受験のためだけでなく、相手の問いに対して自分の考えていることが的確に伝えられるか、対応のマナーができているかなど、さまざまな観点からこの面接練習を大切にしています。生徒は、姿勢・歩き方・礼などの立ち振る舞い、質問に答える言葉づかい、答える内容にも気を付けながら、本番さながらの緊張感をもって臨んでくれています。入試などで面接する側は、短い時間のやりとりの中でその人の人柄や本気・やる気・熱意を瞬時で見抜きます。今回の面接練習では、どの生徒も「限られた数分間」の中で、口先だけの言葉でとりつろうことなく、「普段通りの自分」を素直に表現できていて、すばらしいと感じました。

これらのことは、「その時だけ特別」とか「その時のためだけに用意された」ものではなく、普段からごくごく当たり前で日常生活の中で考えたり行動していたりするからこそ、自然にふるまえるみなさんの「素直な心」の表れだと思います。このことは社会に出てからも、きっとみなさんの強い味方になってくれるはずです。

## トルコ・シリアの大地震

先日の校長室だよりで「阪神淡路大震災」のことを取り上げ、1月末に教室内での避難訓練を行ったばかりですが、2/6 にトルコ南部を震源とする大地震が発生したことは、みなさんもよく知っていることと思います。命を失った人の数は日ごとに増え続け、2/13 時点で3万人を超えたと報道されています。トルコでは、役所やカフェ、レストランが立ち並んでいた町の中心部にがれきの山が広がり、ほんの数日前までにぎわっていた町の姿を想像するのは難しく、すさまじい破壊力の地震であったことがわかります。とりわけ内戦が続くシリアは、海外の救難チームの入国や支援物資の輸送が困難になり、別の意味でも被害が拡大すると予想されています。

地震は決して他人ごとではない、ということを改めて感じさせられるできごとでした。遠く離れた場所での災害ではありますが、今、私たちにできることは、大切な命が多く救われるよう祈ること、そして、ニュースや新聞で報道される様々な現実には耳を傾け、「もし自分だったら」を想像し、「自分ごと」としてしっかりととらえることだと思います。

### 保護者の皆様へ

平素は本校教育にご支援・ご理解を賜り、誠にありがとうございます。

1月27日開催の1・2年生 学年懇談会へのご出席、ならびに学校評価アンケートの回答にご協力いただき、ありがとうございました。今年度も残すところ2か月足らずとなり、いよいよまとめの時期となります。教職員も今年度の教育活動を総括し、次年度に向けて検討を重ねているところです。

今後ともご支援いただきますよう、よろしくお願いいたします。